

橋名板と大阪市道路元標

コロナ禍のなかで、大阪市役所で仕事をする事が多くなり、中之島界わいを歩く。土佐堀川と堂島川、多くの橋にたたずむと、心もなごんでくる。

そんなときに、地下鉄「淀屋橋駅」を上がって橋を眺めると、「昭和 9 年 12 月…」と「淀屋橋」と漢字で表記されていた。市役所の帰りに、橋の北側の表記を見てみると「よどやはし」とひらがなで書かれていた。どうも気になり、反対側を確認してみると、南側がひらがな、北側が漢字で書かれていた。

これはどうしたことかと、次の日に、堂島川に架かる大江橋についても、四方の表記は淀屋橋と同じであった。淀屋橋から天神橋まで歩いたとき、難波橋なども同じ表記だった。さてさて、どうしてなのかとネットで調べてみた。

橋名板について、多くの解説が載っていた。いろいろな説があるようだが、橋の名称などは道路起点側からみて左側に設置される。漢字表記の起点側が橋の入口、ひらがな表記は出口などと書かれていた。さて、淀屋橋の入口はどちらなのだろうか。道路起点側とは、大阪のどこなのか。調べてみると、「梅田新道」の角にあるらしい。いつも市役所の帰りに通るところだ。

すこし探したが、大阪駅前第 3 ビル前に、「大阪市道路元標」なるものがあつた。「大阪市道路元標は、旧道路法（大正 8 年）の制定により 大正 11 年中之島の大阪市庁舎前に設置されたのがはじまりで それ以前は明治 9 年 高麗橋東詰に建てられた里程元標が その役目を果たしていた その後 新道路法（昭和 27 年）が制定され市内を通る国道の起終点が 梅田新道に定められたのに伴い 昭和 28 年道路元標もこの地に設置された このたび 一般国道 2 号拡幅工事に際し道路元標を新しく製造したが黒御影石の銘は 昭和 28 年当時のものをそのまま用いた 昭和 57 年 4 月」一般国道 1 号 東京都→大阪市 終点 2 号 大阪市→北九州市 起点などと書かれている。一般国道の終点と終点が記載されており、ここが大阪市の道路起終点なのだ。

さて淀屋橋など、道路起点側からみて左側に書かれている橋の名はひらがな表記である。こちらが出口なのだろうか。



(2020年6月1日)